

防災気象情報の伝え方改善に向けた取組について

【 】内は実施時期

1. 令和2～3年度の検討会報告書を踏まえた取組

○ 線状降水帯がもたらす降り続く顕著な大雨への注意喚起【R3. 6. 17～】

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する「顕著な大雨に関する情報」を提供。

なお、発表基準については内閣府の SIP¹「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」と連携して検討したものを使用。

○ 顕著な台風等が接近した際の呼びかけ方の改善【今出水期～】

「特別警報級の台風」や「特別警報発表の可能性は小さくなったが、引き続き警戒」などという表現を使用する場合は、大雨や暴風等によってどのような災害が想定されるのかがより伝わるよう解説を一層強化。さらに、詳細な情報を住民自ら取得してもらえらる解説を強化するとともに、安心情報と誤解されないよう、起こり得る災害や引き続き避難行動が必要とされる状況であることの解説を強化。

○ 社会的に大きな影響があった現象について検証の実施・公表【今出水期～】

令和2年台風第10号と同様、多くの自治体に早めの防災対応をとっていただくとともに、多くの方に適切な避難行動をとっていただくためには、気象台等が発表する情報の信頼感を維持或いは高めていく必要がある。このため、社会的に大きな影響があった現象について検証の実施・公表を行う。

○ 災害対策基本法改正及び避難情報ガイドラインの改定を受けた警戒レベル相当情報の見直し【R3. 5. 20～】

- ✓ 大雨特別警報を警戒レベル5 緊急安全確保の発令基準設定例として位置づけ
- ✓ 高潮特別警戒水位への到達情報を「災害発生の切迫」を含めた「高潮氾濫発生情報」として警戒レベル5 相当情報へ位置づけ
- ✓ 国管理河川では、洪水の危険度分布（水害リスクライン）や氾濫開始相当水位 等を活用した発令基準設定例を提示

○ 「防災用語ウェブサイト」の開設【R3. 6～】

発信者（国、自治体）と伝え手（報道機関等）で防災情報への認識を共有するため、防災情報に用いられる防災用語の意味や、その情報が発表された際に住民がとるべき行動、情報を伝える際の留意点、用語の理解を深めるための参考資料などを整理した「防災用語ウェブサイト」を開設。なお、本ウェブサイトを各地方のマスコミ各社と地方整備局、自治体等で構成する協議会等を通じて、行政機関や報道関係者等へ紹介。

¹ 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP: Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program）

- 「緊急放流」を用いたダムの放流に関する通知等について【今出水期～】
緊急時に呼びかける際には、ワンフレーズでその意味が受け手に理解されるよう、関係機関への通知等において「緊急放流」を使用する。なお、ダム操作の状態に関する表現として「異常洪水時防災操作」は引き続き使用する。緊急時とは、異常洪水時防災操作に移行する可能性があるとき（実施するときを含む）であり、関係機関への通知・情報提供をはじめ、関係自治体へのホットライン、報道発表・記者会見などの場面を想定。
- 指定河川洪水予報の予測時間延長【R3. 6. 1～※】
国管理河川の指定河川洪水予報で提供している水位または流量の予測情報を、従来の3時間先から6時間先までに延長。合わせて、警戒レベル3（高齢者等避難）の発令の判断に資する「氾濫警戒情報」を、これまでよりも早い段階から発表し、警戒を呼びかける。
※すべての国管理の洪水予報河川を予定しているが、システム改修を伴うため、大雨等により改修時期を全河川あるいは一部河川について見送ることがある。

2. 令和元年度の検討会報告書を踏まえた取組

- 記録的短時間大雨情報の改善【R3. 6. 3～】
災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることを適切に伝えられるように、記録的短時間大雨情報を、当該市町村が警戒レベル4相当の状況となっている場合にのみ発表。
- 「キキクル（危険度分布）」の通知サービスの細分化【R3. 6. 3～】
住民の自主的な避難の判断によりつながるよう、「キキクル」の通知サービスについて、政令指定都市については、よりきめ細かい区単位でも通知を開始。
- 警戒レベルに対応した高潮警報に改善【R3. 6. 3～】
自治体や住民が高潮警報のみで避難が必要とされる警戒レベル4に相当しているかを判断できるよう、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える可能性が高い注意報」は高潮警報として発表。
- 大雨特別警報（土砂災害）の改善【R3. 6. 3～】
昨年度より大雨特別警報（土砂災害）の短時間指標として運用を開始したキキクル（危険度分布）の技術を用いた新たな指標により、長時間指標で捉えていた事例も漏れなく捕捉できることが確認できたことから、今出水期より、キキクルの技術を用いた指標に統一。
- 一日先のキキクル（危険度分布）の提供【R3. 秋頃～】
台風による大雨など可能な現象について、より長時間のリードタイムを確保した警戒の呼びかけを行うため、1日先までの雨量予測を用いたキキクルを提供。